立教大学ジェンダーフォーラム主催

映画『わたしたちの家』上映会＆清原惟監督講演会

日　　時：　2019 年 12 月 16 日（月）　18：00～20：30
講　　師：　清原　惟氏（映画監督）
会　　場：　池袋キャンパス　7 号館 7102 教室

今年度の映画上映会では、若手監督の登竜門として知られる「ぴあフィルムフェスティバル」で 2017 年度のグランプリを受賞した『わたしたちの家』を上映し、監督の清原氏をお招きしてトークセッションを実施しました。

セッションでは片上平二郎所長より、例年「フェミニズム」などをテーマにしたドキュメンタリー映画を上映してきたこの会で、不思議な物語をもつフィクション映画の本作を選んだことについて口火が切られました。本作には、娘と母／記憶喪失者と彼女を助ける女性という二組の女性たちが登場するのですが、両者は同じ家のなかにいるにもかかわらず、各々にとっての幽霊のようにお互いが出会うことなく物語が進行します。そしてこの物語において、男性たちは彼女らの家に侵入する存在として現れます。とはいえ、本作は「男性＝抑圧者／女性＝被抑圧者」という典型的な二項対立を持ち込んでいるわけでもなく、かといって一見してジェンダー規範の攪乱を目論んでいる風でもありません。こうした本作に対し、清原監督作品に登場する女性たちの親密かつ微妙な関係性や、「家」「布・編み物」というモチーフ、登場人物の視線など、作品の細部に着目することを通じて、映画とジェンダーの結びつきについて議論が展開されました。セッションを通じ、映画製作には大きなテーマやストーリーだけでなく、人物の所作や衣装、小道具や建物、あるいは照明に音響など、一つ一つのディティールを詰める作業が必要であり、そうしたディティールにこそ映画からジェンダーやセクシュアリティについて、繊細に考えるためのヒントが隠されているのではないかということが示されました。

後半では、清原監督の最新作となる短編映画『網目をとおる　すんでいる』（2018）も上映され、更には監督に会場からのさまざまな質問にお答えいただき、貴重な機会となりました。ご参加いただいた皆様と清原氏に心より御礼申し上げます。

（立教大学ジェンダーフォーラム事務局　片岡佑介）

上映会の様子